

6 林 業

項 目	作 業 内 容
(1) 移植	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○移植 ○せん定 <p>7月の気温及び日照時間は平年並み、降水量はやや高く推移した。8月は気温が高く、日照時間が長く、降水量が少なかった。今年の緑化木は比較的弱った状況にあるといえる。</p> <p>葉焼け等で完全に枝葉が枯れている箇所は花ばさみ等で切り取り、バークたい肥を敷き詰めることで地面からの蒸発を防ぎ、土の保水力を高める等の対策が必要となる。</p> <p>10～11月は気温の低下と共に樹木の樹液の移動が緩やかになるため、暖地性常緑樹以外の樹木については移植の適期となる。</p> <p>また、来春に移植を考えている木では、根回しの適期となる。</p> <p>ア 根回し：移植を予定している木の根の途中を人為的に傷付け、その傷口付近から新しい細根を出させる作業を指す。</p> <p>移植する樹木のうち、幹の直径が5cm以上のもの及び植え付けて長年経っているものについては、移植実施の半年から1年前に根回しを実施しておく。根元径の5倍の円状に樹木周辺を掘り、大部分の根を切り、一部は皮を剥いておく。これにより、急激な樹勢の減退を防ぎながら、新根の発生が促進され、活着が良くなる。</p> <p>イ 掘上げ：樹木を植え替える時、根を掘り下げる。土を付けたまま掘り取った部分を「根鉢」という。</p> <p>掘上げは、根鉢を付けない場合、広さは幹の直径の10倍程度、深さは広さの2分の1程度、根鉢を付ける場合、広さは幹の直径の5～6倍程度、深さは広さの3分の2程度に掘り上げる。</p> <p>移植時には根を切ることで、樹木の水分の吸水能力が低下するが、葉からの蒸散は通常時と同様になされるため、せん定により葉の数を減少させ、バランスをとる。</p>

項 目	作 業 内 容
<p>(2) せん定</p>	<p>ウ 植付け</p> <p>径、深さとも根鉢の1.5倍以上の植え穴(写真1)を掘り、元肥を施す。植え穴に樹木を入れるが、この時、根張りが見えるほど浅く植えると、地面付近にしっかりと根を張る。</p> <p>植え穴の3分の2程度土を入れ、水をお汁粉状になるまでたっぷり注ぐ(水ぎめ、写真2)。この際、細い棒でつつく等し、細根の間まで十分に土が入るようにする。ただし、ツツジ類など樹種によっては水の代わりに土を入れる土ぎめを実施するものもある。</p> <p>その後、上部まで土を入れ、軽く踏みつける。周囲の土砂を盛り上げ、水鉢を作る。乾燥と霜による凍結を防ぐため、わら等で周辺の地面を覆う(マルチング)。支柱を建て(写真3)、固定した後、十分にかん水する。</p>
	<p>エ 10~11月に移植すべき樹種 ボタン、ボケ等</p> <p>オ 10~11月に移植できる樹種 ウバメガシ、カイヅカイブキ、クログネモチ、コデマリ、オオデマリ、ゲッケイジュ、ニシキギ等</p>
	<p>10月は、一般的に常緑広葉樹や針葉樹のせん定の適期であり、最後の仕上げとして、徒長している枝のみを切るようにする。各種生け垣は、10月中に年内最終の刈込みを行う。</p> <p>ただし、コデマリやユキヤナギ等、10月に花芽が分化するものについては実施しない。</p> <p>また、落葉樹は冬季がせん定適期のため、11月以降の落葉後にせん定する。</p>



写真1 植え穴



写真2 水ぎめ



写真3 支柱設置